資料６－２

福島大学 相双地域支援サテライトの取組と F-REIとの連携

第５回 新産業創出等研究開発協議会　意見交換資料
福島大学地域未来デザインセンター 相双地域支援サテライト

被災12市町村を担当する相双地域支援サテライト（2012年開設。金谷川・富岡・小高の3拠点、12月から15名体制）は、福島県から「復興支援専門員設置業務」と「地域コミュニティ再生・形成支援業務（令和8年度～）」を受託し、**帰還者・移住者がともに暮らす地域づくり**と、**地域・事業者・学生をつなぐ人材育成**に取り組んでいます。

1 コミュニティ再生・形成とF-REI立地地域での連携

- 富岡町西原地区・浪江町幾世橋地区・南相馬市小高区・飯舘村等で、住民ヒアリング、ワークショップ、交流機会づくりを伴走支援。事例集と自治体職員向け講座で横展開。
- F-REIが立地する**浪江町幾世橋地区**（約400世帯）で「防災コミュニティ」づくり。区長・連絡係・町役場と定例会、お茶っこ交流会、**11月3日（火・祝）津波避難訓練**、花植え、神社清掃。

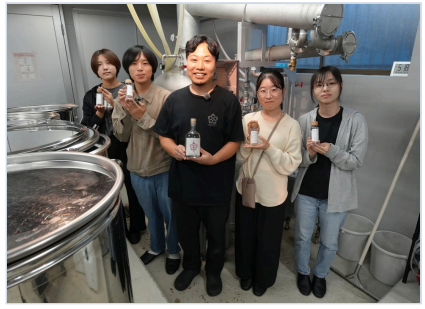


幾世橋地区の「防災の集い」（住民と福島大生による防災マップづくり）

提案：F-REIの研究者・職員、立地企業の皆さんに、地域行事を住民と「顔の見える関係」を築く場として活用いただきたい。「エフとも」・第5分野との連携も継続。

2 事業者・起業家と学生をつなぎ「地域にある価値」を高める

- 本学卒業生の大島草太さん（株式会社Kokage）は、授業で訪れた川内村に移住し、2024年11月にクラフトジンの**naturadistill川内村蒸溜所**を開設。
- 「復興知」協働プロジェクト学修で、学生が蒸溜所・ワイナリー等を取材し、福島民報社「ふくしまドアプロジェクト」で発信。
- **12月20日（日）**復興創生シンポジウム（CREVAおおくま、主催：本センター・福島県）で大島氏と学生の基調トーク。



蒸溜所を取材した福島大生と大島さん（2026年9月）

提案：F-REIのスタートアップ支援・産学官民ネットワークと地域起点の小さなイノベーションを結びつけたい。12月20日のシンポジウムへのご参加を。

3 浜通りの復興・産業を担う人材育成

- 全学向け科目**「災害復興学」**（後期・全15回）。10月28日（水）は「相双企業セミナー」と連携した「浜通りに立地する企業の現在」。
- **「相双地方のこれからを考える会」**：浜通り12市町村の若手・中堅職員研修（主催：相双地方振興局、本センター協力、全5回）。
- **福島大学小高まちなかブランチ**（2026年7月1日開所）で学生の滞在型の学び。福島「ふるさと愛」プロジェクトで全国の大学生のフィールドワークも受入れ。

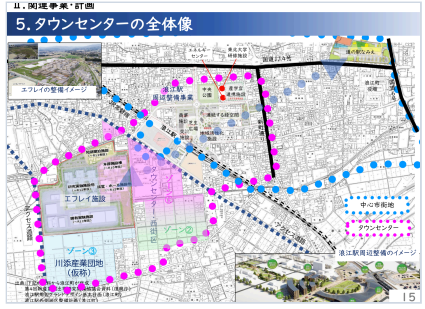


小高まちなかブランチ開所式の記念撮影（2026年7月1日、F-REIを含む54名が参加）

提案：F-REI研究者の授業・職員研修への出講、学生の施設見学・インターンシップ受入れ。F-REI研究者（PI）の大学院教育への参画と共同研究の推進。

4 研究学園都市づくり（浪江駅西側地区共創会議）への参画

- 浪江駅西側地区（タウンセンター・西街区）の公民連携まちづくりを話し合う「浪江駅西側地区共創会議」（事務局：浪江町、令和7年5月キックオフ）。
- 本センターはF-REI等とともに**関係機関・支援機関（11団体）**の一つ。小高サテライトのコーディネーター伊藤航がアドバイザーとして参画。
- 役割：町外事業者と地域コミュニティの橋渡し、専門的知見を提供できる教員等の紹介。



タウンセンターの全体像（浪江町資料より）

提案：研究者・立地企業と住民がともに暮らし交流する場づくりに、幾世橋で築いた地域との関係を生かして貢献し、共創会議を通じてF-REIとの連携を深めたい。

出典：本学の業務実施計画書・議事メモ等、復興創生シンポジウムチラシ、浪江町「浪江国際研究学園都市 タウンセンター・西街区（浪江駅西側地区）整備事業について」（2026年3月）

詳細は別添資料1～4